

みな風こども食堂
ボランティアを通じて見えてきたこと

みな風こども食堂ボランティア 服部 孝

フェイスブックで発信中

- 子どもの貧困、児童虐待、社会的養護
- 生活困窮者支援など

ご覧ください⇒



地域に広がる「子ども食堂」とは・・・

誰でも参加できる

共生（コミュニティ）型

生活困窮者等対象者を限定する

ケア型

無料または低額で食事を提供

子ども食堂の7～8割は、子供も大人も誰でも」参加できる「共生型」。

食事・食育

学習支援

農作業
自然体験

遊び

季節のイベント

職業体験

多様性が特徴
子供を中心に
地域のあらゆる主体が
参加・交流

生活学習

スポーツ
レクリエーション

家庭訪問
個別支援

文化芸術

みな風こども食堂の取組



【みな風こども食堂】

- 令和2年8月オープン
- 毎月2回開催(第1・第3土曜日)
- お弁当は130食用意
- ボランティア登録数:約40人
- [様々な立場の方が参加]

- ・地域の方々
- ・高齢者施設職員
- ・元障害者施設職員
- ・特別支援学校教員
- ・行政職員
- ・大学生・高校生・中学生 など

毎回ミーティングを開催し、ボランティアの交流を深めている

【学習会の実施】

- ボランティアの資質の向上
- 地域の方に社会的な課題を知る機会の提供

【第1回】(子どもの貧困)
子どもの貧困を知る

講師:服部

【第2回】(障がい者支援)

誰もが幸せに生きていくために

講師:みぬま福祉会

施設長 松本 哲 氏

【第3回】(地域福祉)

こども食堂とボランティア

講師:三芳町社会福祉協議会

古賀 和美 氏

【第4回】(不登校)

学校外で育つ子どもたち

講師:彩の国子ども若者支援ネットワーク

理事 白鳥 勲 氏

講師:多様な学びプロジェクト

副代表 萩原 裕子 氏

【みな風フードパントリー】

- 令和2年12月オープン
- 偶数月の第3金曜日開催
- 対象世帯(約40世帯登録)
- ・児童扶養手当受給世帯
- ・障がい者手帳のある方がいる世帯 等

※さいたま市が後援

- 支援が届きにくい世帯に対してフードパントリーを通じて支援を届ける。
- 繋がりができたら、子ども食堂を案内する。
- 障がいがあっても当たり前に参加できる居場所をつくる。
- ひとり親、障がい者(児)、社会的養護出身者等について理解を深める場所となる。

みな風こども食堂 ボランティアを通じて見えてきたこと



さいたま市中央区本町西2-2-24
カフェギャラリー南風(みなかぜ)

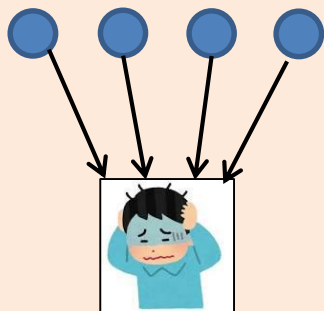


代表の「山田 ちづ子」さん

- 子ども達の笑顔や親御さんからの感謝の言葉で元気をもらうことができる(感謝される、必要とされる⇒モチベーション向上)
- シニア・大学生・高校生・中学生等多世代の場となっている
- これによりボランティアにとっても居場所となっている
- 子ども食堂に来る方から、食材の提供、寄付、ボランティアの申込等があり相互の支え合いを感じることができる

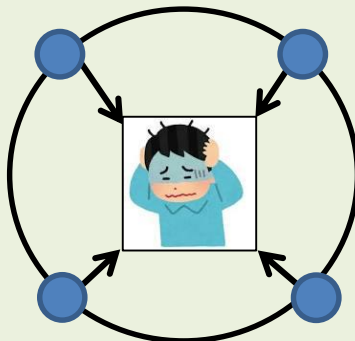
～お互いに支え合う地域（ケアリングコミュニティ）～
誰もが地域の中で安心して暮らすことのできる包摂型の地域づくりの事であり
「共生社会を目指し、相互に支え合うことができる地域」のこと

従来の支援



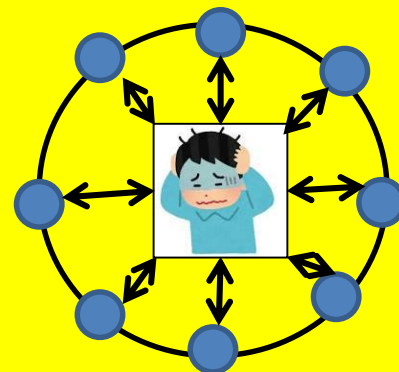
- 支援がバラバラ
- 支援は専門職が実施
- 支援対象者は地域で孤立

特別な存在



- ネットを構築して支援
- 住民の一部が支援に参加
- 支援対象者は、「支援すべき特別な存在」

対等の存在



- 地域住民が支援対象者の「人格が平等・対等」であるとの意識がある。
- 支援対象者は地域の他の住民と同じように社会に参画し、自立・自己実現を図る。

「誰も排除しない地域（孤立しない地域）」

困った時はお互い様

児童虐待のない社会をめざして ～他人ごとから自分ごとへ～

日々報道される児童虐待—

2017年には伊奈町でも4歳の子どもが虐待により亡くなるという痛ましい事件が起きており、虐待は決して他人事ではありません。私たち一人ひとりができることを考えていく必要があります。

新型コロナウイルス感染症の影響が長期化し、児童虐待が増えているということがデータとして表れているなかで、今回の講演会とシンポジウムでは、児童虐待が発生するメカニズムを探りつつ、当事者の声をもとに虐待をなくするための取り組みを参加者の皆さんとともに考えていきます。

日 時 2022年 2月23日(水) 午後1時～5時(開場12時)

会 場 上尾市コミュニティセンター ホール

定 員 100名

参加費 499円

基調講演

午後1時～午後2時30分

「児童虐待のない社会をめざして
～子ども達の可能性に繋げるために、
私達の可能性に気づく～」

講師 服部孝氏



シンポジウム

午後3時～午後4時45分

「児童虐待のない社会をめざして
～他人ごとから自分ごとへ～」

講師 ブローハン聡さん 希咲未来さん



主催 P-1 LABO(ピーチラボ)

後援 上尾市 上尾市教育委員会 上尾市社会福祉協議会

協力 任意団体おてんき舎、こども応援ネットワーク埼玉、埼玉フードパントリーネットワーク

登壇者プロフィール



〈服部孝氏〉

1級ファイナンシャル・プランニング技能士、社会保険労務士有資格者、生活困窮者自立支援制度主任相談支援員養成研修修了、同主任相談支援員スキルアップ研修修了。福祉関係(生活保護、生活困窮、児童福祉、障害者福祉)の勤務が長く、アスポート学習支援や子供の貧困対策、社会的養護出身者への支援(クローバーハウス)等に尽力した。社会保険制度・生活困窮者自立支援制度・生活保護制度の3つのセーフティネットや子供の貧困・児童虐待に精通し、講演活動やフェイスブックでの発信もしている。また、福祉施設職員等の階層別研修(福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程)等の研修講師としても活躍している。



〈ブローハン聡さん〉

1992年生まれ、東京都出身。フィリピンとスペインと日本のミックス。現在は(一社)コンパスナビで児童養護施設等を離れた親を頼れない若者をサポートをしている。また、無戸籍、無国籍、虐待や児童養護施設の経験から講演活動やYouTubeの媒体を通して情報を発信している。児童養護施設「THREE FLAGS～希望の狼煙～」著書「虐待の子だった僕-実父義父と母の消えない記憶」(2021年10月8日、さくら舎)



〈希咲未来(きさきみらい)さん〉

2000年生まれ。学校でのいじめやすべての暴力のある家庭で育つ。14歳から夜の街を彷徨い、15歳から19歳頃までを児童自立支援施設などの社会的養護で過ごす。ホームレス生活も経験。たくさんの方の出逢いのなかで、様々な生きづらさを知り、「伝える」という現在の活動に至る。内閣官房こども政策推進体制検討チームからヒアリング、主なメディア掲載は毎日新聞、NHK。これからの目標は「HOME」をつくること。

主催団体

〈P-1 LABO(ピーチラボ)〉

2017年、県文化芸術拠点創造事業に採択され空き家を再生し、アート環境コミュニティの拠点を開設。2020年5月より、モモフードパントリー上尾として、子育て中のひとり親家庭に、隔月、フードバンクから提供される食料品等の配布をはじめると共に、カフェ/フリマ/講演会/映画会/菜園/シェルター等、空き家をフル活用した居場所づくり、もの/ひと/こととのマッチング、フードパントリーの普及活動など展開中。

お申込み

- ① 右記のQRコードから申し込みフォームでお申し込みください。
- ② メールもしくはお電話にてお申し込みいただく際は、お名前、電話番号、ご職業、メールアドレス(任意)、住所(任意)、登壇者への質問(任意)をお伝えいただきますようお願いいたします。

メール seminar223ageo@gmail.com

電話番号 090-9398-2808 (ピーチラボ 深沼)



上尾市コミュニティセンター 上尾市柏座4丁目2番3号

ホームページはこちら▶

〈JR 高崎線 上尾駅西口〉徒歩約15分

〈JR 高崎線 上尾駅西口から東武バスウエスト〉「西上尾第一団地(西柏座経由)行き」「西上尾車庫行き」いずれも「弁財入口」下車 車台数には限りがありますので、ご来館の際は乗り合い、又は公共の交通機関をご利用ください。



〈新型コロナウイルス感染症対策のためお願い〉

- マスクの着用、手洗い等をお願いします。
- 当日受付にてご体調をお伺いするとともに、体温の確認をさせていただきます。風邪症状のある方、体温が37.5度以上の方はご参加いただけませんのであらかじめご了承ください。

フードドライブにご協力をお願いします。

当日会場においてフードドライブ(ご家庭などで余ってしまった食品を回収する活動)を行います。ぜひ食品をお持ちいただき、活動へのご協力をお願いいたします。

※下記の点にご注意をお願いしております。

- ①賞味期限が明記かつ3か月以上あるもの、②常温で保存が可能なもの、③未開封のもの、④破損で中身が出ていないもの

